

洋画2箱(20冊)  
日本画2箱(36冊) } を利用

【授業計画】

- 第1時: 描写文について説明・絵を選ぶ①(本時)
- 第2時: 絵を選ぶ②・メモづくり
- 第3時: 描写文づくり①
- 第4時: 描写文づくり②
- 第5時: 描写文づくり③
- 第6時: 発表①
- 第7時: 発表②

教科	国語
科目	国語表現
生徒	3年生(家政科) 16名(男子0名、女子16名)

※家政科の生徒の内、国語表現2グループ、古典1グループに分かれて学習を進めている。

単元名 「描写文を書く」

本時のねらい 対象を観察する目を養い、描出する方法を知る。(1/7時間)

時間	授業者の行動や働きかけ	学習者の行動や反応	備考(板書や教具等)
8:50 担任	<p>「県立図書館から本をいっぱい借りているので、図書館の方が見にいっしょにしました。」</p> 	<p>洋画2箱 20冊 日本画2箱 36冊 (前)</p> 	板書の使用無し
8:53 担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・谷川俊太郎の詩「定義」を示し、対象を観察する目・対象を描出する独自の視点を学ばせる。</li> <li>「詩」についての説明をする。</li> <li>「自分の視点で見つめた文章だから詩。長い、短いではない。」</li> <li>「まだ、分からない?」</li> <li>「これはコップのことです。」</li> <li>「今日の学習で使うワークシートを配ります。裏には、五感を働かせて観察することで見えてくるものをメモし、裏のメモが完成したら、表に、メモした素材を使って描写文を書きます。」</li> <li>「日本画もあるし、洋画もある。ゆっくりと楽しんで見て、1枚絵を選んで欲しい。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文章を目で追いながら、黙読をする。</li> <li>・文章の意味を想像しながら、考えている。</li> </ul> <p>「分からない。」</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>・県立図書館の本 [ 洋画2箱(20冊) 日本画2箱(36冊) ]</li> <li>・学校図書館の本</li> <li>・ワークシート</li> </ul>
9:00 担任	<ul style="list-style-type: none"> <li>・3年前の家政科の先輩の作例を紹介し、描写文とは何かを理解させる。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>「老婆」「囚人」の2例を紹介</p> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・家政科の先輩の作例</li> </ul>
9:10 担任 司書 (司書は主に選書の助言を行った)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・作業(本を手にとって見たり、絵を選んだりする)に取りかかるように指示を出す。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ページを1枚1枚めくりながら、熱心に本を読む姿が見られた。</li> </ul>	
9:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本が決まらない生徒におすすめの本を紹介したり、絵の選び方について助言をしたりする。</li> <li>「○○は、ムンクとか好きそうだね。」</li> <li>「言葉で絵の説明をするので、あまりシンプルな構図だと難しいかも。」</li> <li>「こういった絵の本(美術書)を見ることも少ないでしょ。せっかくの機会だよ。」</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・普段触れる機会のない様々な絵画に十分に触れ、描写したい1枚を選ぶ。</li> <li>・ワークシートを記入しながら、五感を働かせたり様々な角度から対象を見つめたりすることによって、絵画を描写するためのメモを記入する。</li> </ul> <p>(ルネサンス期の絵を見て)「昔の人って、みんなこんな気持ち悪い絵ばかり描くのかな。」</p>	
9:40	<ul style="list-style-type: none"> <li>・画集のタイトル、絵の名称をワークシートに記してあるか確認をして、回収をする。</li> </ul>		